

筑井あけみ



## 上福島の7.4ヘクタール問題の解決策は

町長 青地農地（農振農用地）に戻す手続きを進めていきたい

**質問** 町長は、施政方針の中で、「玉村町の魅力と活力のある観光のまちづく



上福島西部地区  
7.4ヘクタールの土地

**質問** 上福島7・4ヘクタールの土地は、相当長い年月塩漬け状態になっている。以前から指摘されている問題を先送りせず、解決策の提示を早急にせよ。

**回答** 町長 国や県から、青地農地（農振農用地）に戻すよう指導がきている。この地域は、前橋南ICに近く、スーパーモール等、周辺の開発が進んでいる。このような地域性を生かした用途地域の指定を視野に入れながら、指定路線地域の開発に生かしていきたい。

**質問** 町長は、農政方針の中で、「玉村町の魅力と活力のある観光のまちづく

**回答** 町長 来町者用駐車場の確保、サイン看板の充実、駅からの交通整備、地元住民のおもてなし意識を高めることなどが、必要だと考える。行政だけでなく、町内全域で観光環境整備を行うことで、口コミ客やリピーターを確保できると考える。

**質問** 新年度から、企業の障害者雇用枠が拡大される。障害者を雇用しなければならぬ事業主の範囲が現行56人以上から50人以上に、法定雇用率も1・8%から2%となる。事業主に対する今後の取り組みは。

**回答** 町長 ハローワークや町商工会と連携を図り、制度の理解を深めてもらえるよう、町内の全事業主に周知・啓発を徹底していく。

三友美恵子



## 「たまりん」の利便性の向上を求む

町長 利用者からの要望を検討し、改正していく

**質問** 町長 原因としては、開業当初利用していた方が高齢になり、外出の機会が減ったことや、現在75歳以上の免許保有者が1000人を超えていることが考えられる。新年度から65歳以上の免許返納者に対し、「たまりん」の回数券を贈呈し、マイカーの足に利用していたかどうかと計画している。今後は、高齢者が増加し利用もふえてくると思われるので、改正をしながら維持していく。



全コースを1日3台で運行している「たまりん」

**質問** 昨年9月にダイヤ改正を行ったが、「たまりん」の利用者が減少しているのはなぜなのか。また今後の施策はどのように考えているのか。

**回答** 町長 現在、1673人の方が登録している。いざという時のために、最低1世帯1人に登録していただけるよう働きかける。また大規模災害発生時には、携帯電話やメールが機能しにくくなると予想され、複数の手段を構築する必要がある。総合計画に基づき整備していく。

**質問** 「メルたま」の登録状況はどのようになっているか。また、全町民に向けての防災情報の発信を、今後どのように構築していくのか。

**回答** 町長 消防団員の伝達方法が携帯電話に移行し、定着した。サイレンの受け取り方も、町民の就業形態の多様化により違ってきた。月1回でも、メンテナンス面で問題がないので変更した。

# 文化センター周辺の住宅団地構想は独自性を出して

**町長** 定住促進効果がある事業をできる限り取り入れていきたい



備前島久仁子



文化センター周辺地区

**質問** 文化センター周辺の都市再生整備計画の概要は。

**答 弁** 町長 現在は構想段階だが、200戸の住宅団地や公園、調整池等を計画している。町からの転出者の多くが、町内に適当な土地がないために定住できないことを理由としている。そこで、住宅団地を整備して定住促進を図りたい。町が用地買収を行い、造成した後、ハウスメーカーに売り渡し、ハウスメーカーが家つきで販売する予定で進めている。平成29年度の販売を目指したい。

**質問** 町の人口をふやすためには、町外から人を呼び込むべきと思うが、何割が他市町村から転入してくると見込んでいるのか。

**答 弁** 町長 それは不明だ。

**質問** まだまだ経済状況が悪い中、ハウスメーカーがリスクを負って200戸を請け負うのか疑問だ。高崎駅まで15分ほどと、交通の便は良い場所ではあるが、独自性を出したマスタープランでなければ完売は難しいのでは。

**答 弁** 町長 そのとおりだと考える。今後、さまざまな角度から検討し、整備をしていきたい。

**質問** 「住民活動サポートセンターはる」の民営化へのプロセスは。

**答 弁** 町長 当初から公設民営を目指してきた。平成25年度からは業務委託とし、住民活動団体の自律化の促進と、他の主体との協働の推進を2大機能とする。住民の柔軟な思考、行動力を最大限に生かせるよう、町は協力をしていく。

# 美しく活気ある町へ

**町長** 提言を踏まえ、施策を進めていく



原 幹 雄



玉村町役場

**質問** 町には、町民が何かにつけ出かけていく中心市街地がない。人々が活気を感じ、店を出してみようと思えるような場所、町に住む人が日常的に出かけたくなるような場所を創出するの市政の力だと思うが、何か施策を考えているか。

**答 弁** 町長 自動車の普及により旧来の商業地が衰退し、買い物客の流れは変化してきている。しかし、多くの施設が集まる役場庁舎を中心とした地域を再編し、高度利用を進め、町の拠点として、例弊使道沿道を含めて、にぎわいのある地域にしていきたいと考えている。

**質問** 町のシンボルとしての小中学校校舎の維持管理を定期的に行い、学ぶ環境を整えるとともに、施設の長寿命化、町の景観の保全を図っていく必要があると考えるが。

**答 弁** 教育長 校舎等の点検は、学校保健安全法に基づき実施している。毎月、学校施設・設備等の点検を行い、2年ごとに専門家による点検を行っている。大規模改修は30年をめどに行っており、今後改修が必要となる校舎は、中央小・南中・芝根小などである。まず、中央小から実施していく予定である。財政の問題もあるが、順次改修を行い、安全で環境の整った学びの場を維持・提供していく所存である。